

「銀河教室 in つくば」を開催 小中学生が宇宙・地球と 鉄の関わりを学ぶ

新日鉄、(財)日本宇宙少年団、毎日新聞社は9月20～21日の両日、茨城県つくば市のJAXA((独)宇宙航空研究開発機構)筑波宇宙センターで「銀河教室 in つくば」を開催した。銀河教室に参加した小学4年生～中学3年生の32人の子どもたちは、宇宙・地球と鉄の関わりを学び、自分たちでつくったガリレオ望遠鏡で天体観測をし、実際に使われている施設で宇宙飛行士訓練を体験するなど、宇宙科学の世界を存分に楽しんだ。



隕鉄をさわる子どもたち



宇宙飛行士訓練を体験

未来を担う人材の育成を図る

今回の銀河教室では、宇宙・地球と鉄の関わりについて、新日鉄フェローの上島良之が子どもたちに話した。上島は、137億年前の宇宙誕生にさかのぼって、鉄は生命と現代社会になくしてはならない存在であることを解説。子どもたちは実際に隕鉄や鉄鉱石に触れたり、上島を囲んで鉄に関わる質問を熱心に投げかけたり、興味が尽きない様子だった。

滋賀県から参加した中学校1年生の男子生徒は「鉄は宇宙が生まれたときからあったのはすごいと思いました。それに血が鉄の色でできていて人間の中に鉄イオンがあることや、地球の中心にある大量の鉄が強い万有引力で重力をつくり出していることを知り、驚き

の連続でした。鉄は身近にあるけど、とても大切なものだと思います」と感想を語った。

2日間にわたるプログラムの最後に、JAXA技術参与的川泰信氏は「私たちが生きているということは、宇宙の進化の最前線にいるということです。私は宇宙の仕事を通じて命の大切さを知りまし

た。皆さんもご両親から授かった命を大切にしてほしい」と子どもたちに呼びかけた。

新日鉄は参加した子どもたちに学習絵本『新・モノ語り』を配るなど、鉄に関連するさまざまな情報を提供した。今後ともさまざまな機会を通じて、未来を担う人材育成に積極的に取り組んでいく。



新日鉄 フェロー 上島 良之



(独)宇宙航空研究開発機構
技術参与 的川 泰信氏